



MBT社会貢献活動の第3弾として

「MBT難聴克服・認知症予防キャンペーン」を提案します！ 難聴は認知症の発症リスクを高めています！

- ・ MBTコンソーシアムは奈良医大と連携して、これまでに社会貢献活動の取り組みとして、**2020年6月にMBTコロナ克服キャンペーンを、2021年5月にMBT難病克服キャンペーンを提案し、その活動を通して社会に貢献する成果を上げると共に、MBT活動の社会への浸透を図ってまいりました。**
- ・ コロナの鎮静化と共にMBTコロナ克服キャンペーンはほぼ役目を終えましたが、**MBT難病克服キャンペーンは今後も引き続き推進してまいります。**
- ・ そして、**更なる社会貢献の第3弾として、超高齢社会が進む我が国において多くの高齢者が難聴の悩みを持っていることに着目しました。**
- ・ 近年の国内外の研究では、**難聴のために、脳に伝えられる音の情報量が少ないと、脳の活性化が阻害され、認知症の原因になることが明らかになったと、報告されています。**
- ・ Lancet国際委員会レポート2017によりますと、**難聴は認知症のリスクファクターのトップに挙げられています。WHOレポート2022においても、補聴による認知症リスク回避を勧めています。**

MBTでは、奈良医大で発見された軟骨伝導応用イヤホンを金融機関窓口等で実証実験し、高齢者に明瞭な聞こえを提供すること、高齢者が難聴を自覚し、補聴器、集音器の使用を促進することによる難聴克服運動を行ってきました。



↑城南信用金庫窓口で軟骨伝導イヤホン（右写真）を用いて対応の様子

- ・ 2023年2月に地域の活性化と産業の振興を図る目的で、よい仕事おこしフェア実行委員会（事務局：城南信用金庫）・奈良医大・MBTコンソーシアムが包括連携協定を結びました。
- ・ この協定の活動として、2023年5月から軟骨伝導イヤホンを全国の金融機関の窓口を設置し、更には2023年7月からは、(株)時事通信社、東京新聞、(株)福島民報社、明治安田生命保険相互会社、ラディウス(株)の支援も加わり、自治体・警察署・郵便局、等々の窓口にも実証実験を拡大し、難聴気味の高齢者の聴覚反応を確認してきました。
- ・ その結果、通常のイヤホンと異なり音が出る穴がなく清潔であること、騒々しい環境でも、クリアに聞き取ることができる、と高評価をいただきました。これらの経緯を踏まえ、「**MBT難聴克服・認知症予防キャンペーン**」を第3弾として推進することを決定し、1月13日のMBT映画祭の開会あいさつの中で細井裕司理事長より、その表明がなされました（左写真）。
- ・ **会員企業の皆様、本キャンペーンにおいて、軟骨伝導イヤホン以外でも難聴克服、認知症予防に有効と思われるハード・ソフト等の提案をお待ちいたします。**

